

広報

環境カウンセラーちば

第38号

特定非営利活動法人
環境カウンセラー
千葉県協議会

環境カウンセラーは、環境省に認定された環境の専門家です。
環境調査、環境管理・監査、廃棄物対策、環境教育・学習などお気軽にご相談下さい。

平成21年文化の日 千葉県功労者表彰を受ける

昨年9月のある日、千葉県環境生活部から「貴会を文化の日千葉県功労者表彰の候補者として推薦したところ承認されました。つきましては標記表彰をお受けいただけるか御意向を連絡願います。」との知らせをいただきました。突然の知らせでしたが、迷わず光栄なことで謹んでお受けしたいと回答するとともに、当協議会の役員・役職のみなさんに吉報を連絡しました。

この栄誉ある功労者表彰にあたって、当協議会の歩みを振り返ってみると、平成8年度の環境カウンセラー登録制度の創設に伴い、千葉県内で初年度登録者の56名により平成10年2月に任意団体として「環境カウンセラー千葉県協議会」を設立して12年半余りが経過しています。さらに会員数が100名を超え平成15年7月には、それまでの任意団体を解散し、「特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会」（略してEC千葉）を設立してから7年の歴史を重ねており、平成20年には設立10周年として記念式典、記念講演会、八幡平・十和田への自然観察会、記念誌発行などを行ってお祝いをしたところです。

これまでつぎのような活動をしてまいりました。

○県内企業に対し企業環境セミナーや内部監査員養成講座を開催して環境マネジメントシステムへの取り組みを啓発

○エコアクション21(EA21)の普及のためのセミナーやコンサルティング

○EA21の県内展開のために地域事務局千葉県環境財団の活動への協力

○省エネナビによる省エネ生活のフォローアップ

○県との協働事業として、地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための講習会の開催

○県NPOパワーアップ補助金事業を皮切りに県内高校での環境学習授業の展開

○県との協働事業として、浄化槽使用者に対する水質保全の講習会を開催して啓発

このような活動を通して県内の環境保全に寄与したことが評価され今回の表彰に至ったものであり、これまでの会員各位のご努力とご苦勞に感謝いたします。

表彰式典は、昨年11月3日、県庁で行われ、16部門で68の個人・団体が森田健作知事から表彰を受けました。環境部門は3個人・団体が団体として当協議会が唯一でした。式典のあと記念撮影に続いて懇談会が行われ、森田健作知事から当協議会に対し激励のお言葉をいただきました。

この表彰を励みとして、当協議会はさらなる活発な活動を展開していきたいものと思います。

(理事長 國廣 隆紀)



県とNPOとの協働事業

「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」を終了

平成21年度県委託事業である表題の啓発教育を「浄化槽啓発講習会」として開催しました。水環境対策センターのメンバーが中心となって、受講者の募集から会場設営、講師までの全ての業務を私たちが自ら行い、あたかもキャラバン隊(会場設営および講師として巡回)に例えることのできる活動ぶりでした。

7月18日(土)の船橋市を皮切りに6カ月をかけ、12月5日(土)の南房総市を最後に終了することができました。全行程11会場午前・午後の2回、計22回の講習会を開催しました。前半は、下水道の普及が比較的進んでいる地域での開催ということもあり、1回の受講者は15~25名でしたが、後半の浄化槽の割合が高い地域では1回に20~40名の受講者数となり、最終回の南房総市では水質測定の実験を2班に分けて行うほどの盛況でした。

講習会は、浄化槽に関する講義と水質測定実験から構成し、浄化槽の基本から紐解き、浄化槽が「魔法の箱ではない」ことを理解していただくことから始まり、初期性能検査後の毎年行うべきことを自動車の車検制度に例え、維持管理と清掃、それと検査の関連性を説明し、車検証に代わる保守点検記録票(例)の読み方の水質測定実験を体験しながら理解していただきました。

中間点の10月17日(土)の市原市会場での講習会終了後に協働事業の評価委員(2名)、県環境生活部NPO活動推進課NPO事業室及び同部水質保全課水質指導室による中間ふりかえり会議が開催されました。午後の講習会を体験受講された後に予め提出した資料に基づく説明、質疑応答が行われました。後日、評価委員がまとめられた11項目のコメントの一部を引用させていただくと、『事業計画を読んだ時点ではこの内容を協働事業として実施する意義に若干の危惧を抱いていたが、講習会現場を見ることで解消された。行政が行う環境教育の場になかなか参加者が集まらないなかで、浄化槽という身近なところから学ぶ機会をその専門性を持ったNPOが実現しており、大変すぐれた事業と分かった。』と記され、他にも好意的な評価とアドバイスをいただいています。さらなる継続への取り組みの必要性について、『啓発にはある程度の期間とこのような機会が必要であり、単発的に終わらないよう県の水質保全課と環境カウンセラー千葉県協議会には次年度もしっかりと協議して展開していただきたい。』とコメントされていることに対しては、県も22年度の継続実施を検討しているとのことでした。

また、各講習会の終了時には受講者にアンケートを

お願いしました。講習資料について「分かりやすい」、講習会の満足度について「満足~ほぼ満足」、今後、浄化槽を使用する上で「役立つ」などと回答され、大変良い評価をいただくことができました。

地元市町村の浄化槽担当者、設置・維持・清掃等の業界関係者の出席およびマスコミ取材がありました。県内で初めての本格的な浄化槽講習会を成功させ、今後の浄化槽啓発教育の基盤をつくることができました。

県内に浄化槽が約60万基設置されていますが、このうち生活系排水を処理しない“みなし浄化槽”が約43万基あります。管理方法を主とする啓発教育だけではカバーできませんが、その場を活用して合併浄化槽への転換を強く訴え続ける必要があります。

これらの啓発教育は緒についたばかりです。草の根運動として「継続あるのみ」の遠大なテーマです。「浄化槽」が地球温暖化対策やごみ問題と並ぶ主要な環境問題として認識され、環境学習の場で広く取り上げられることが望まれます。環境カウンセラー千葉県協議会の皆様に引き続きご支援ご協力をお願い致します。

(水環境対策センター〈幹事〉浄化槽啓発講習会講師

稲葉信克)



講習会案内状発送作業



南房総市千倉保健センター

秋季研修会 開催

「環境カウンセラーとしてこれから何をなすべきか」

今年度の秋季研修会は、「環境カウンセラーとしてこれから何をなすべきか」をテーマに、11月14日に幕張の(財)海外職業訓練協会(OVTA)で会員21名が参加して開催された。

午前は、はじめに、環境省関東地方環境事務所 環境対策課の寺西 武夫課長補佐に「環境カウンセラーにこれから期待すること」を演題として約2時間講演していただいた。

寺西 武夫課長補佐の講演は以下のように直近の環境政策が分かりやすくよくまとめられており、大変参考になった。

とくに鳩山首相の国会における所信表明演説の中で温室効果ガス排出量について、1990年比で2020年25%削減に向けた中期目標実現のための「チャレンジ25」の説明もあった。

そして演題の「環境カウンセラーにこれから期待することに」についての講演があり、続いて直近の環境政策と地域の環境保全活動について活発な意見交換が交わされた。

寺西 武夫課長補佐の講演内容の項目と内容

I. わが国の最近の環境行政の動向について

1. 温暖化防止に向けた世界の動き

- ・世界で地球温暖化が進んでいる
- ・世界で温暖化対策を行わない場合、被害・影響が大きくなる
- ・温室効果ガスを2000年比で50%~85%削減し、2050年の気温を2℃以内の上昇に抑える
- ・ポスト京都議定書の枠組みをCOP15で国際的に議論する

2. わが国の温暖化対策の枠組み

- ・中長期目標、2020年までに25%削減、2050年までの早い時期に60%超の削減
- ・新エネルギーを2020年までに1次エネルギーの10%導入

3. わが国の温暖化防止の具体的取り組み

- ・低炭素社会づくり行動計画を策定して太陽光発電の導入を強化
- ・太陽光発電を2020年に10倍、2030年に30倍を目標に導入を推進
- ・エコポイントの活用によるグリーン家電の普及促進
- ・国内排出量取引制度、環境税の導入
- ・2050年に80%削減を実現する社会の姿と総合的

な対策でビジョンを描いている

II. 環境カウンセラーにこれから期待すること

1. 環境カウンセラーの現状

4,620人(平成21年4月1日現在)

(事業者部門2,554名、市民部門2,066名)

2. 環境カウンセラーの活躍について

- ・環境カウンセラー研修を実施している
- ・環境カウンセラーに情報を提供している
- ・活躍事例の紹介をしている
- ・環境カウンセラーに期待される役割は環境カウンセリング、自発的環境保全活動

3. 環境カウンセラーに望むこと

- ・「地域における専門家として、持続可能な社会づくりに携わっていただきたい」

その後、國廣理事長から「EC千葉の千葉県での環境NPOとしての活動」について約20分間のプレゼンが行われ、環境省にEC千葉の活動について認識を深めていただき有意義であった。

午後は、2グループに分かれて「環境カウンセラーとしてこれから何をなすべきか」をテーマに、ワークショップでつぎのような議論を行った。

1. EC千葉の組織活動のありかた

役員などの若返り、会員の専門性活用、行政への日頃の接触、行政への政策提言、県内の各種活動への参加協力、県内地域別会員活動

2. 活動テーマとジャンル

幼稚園児・低学年小学生への環境学習、こどもを対象としたごみの分別と環境家計簿の啓発、バイオマス、地産地消、水の浄化

3. 県とNPOとの協働事業の提案へのアプローチ



寺西 武夫課長補佐の講演

(事業部長 茂利 晃)

E A21 普及セミナーの開催報告

2月26日(金)午後、松戸商工会議所で「エコアクション21普及セミナー」を開催したところ、関係者を除いても県内各地から約50名が参加され、久しぶりに活力あふれるセミナーとなりました。

まず、主催者を代表して松戸商工会議所の高橋 健治専務理事から「多くの事業者にとって環境への取組が必須事項として要求される時代になりつつある」とのご挨拶を頂いた後、後援者を代表として地元の松戸市環境担当部環境計画課の榎島 直樹^{げんこつ}減CO₂担当室長が「松戸市減CO₂宣言事業所制度」について説明され、市内の事業者に広く宣言と取組を呼びかけられました。

本番の第1部のトップは、「アースコン・マツド」や「松戸ケナフの会」など地元でも幅広い環境活動を永年リードする一方、今は環境カウンセラー全国連合会の常務理事も務める当協議会の元理事長の土田 茂通理事が「今、何故、エコアクションか？」という基調講演を行いました。

続いて隣接する柏市在住の審査人で当協議会の環境マネジメントシステム支援センター(EMS支援センター)の青木 誠副センター長が「エコアクション21の取組方法とそのメリット」について講演しました。

前者は、環境省の「チャレンジ25」などの政府の取組やエコアクションの政策上の位置づけなど環境省の資料を加えてエコアクションの緊急性を訴えました。

後者は、初年の取組を始めるにあたって重要な計画の策定とその取組のメリットに重点をおいた内容でした。

続く事例発表の一番手は、松戸市内に工場がある(株)ディグでした。4年前に環境省から「環境活動レポート大賞」を授与されている企業で、印刷工場を徹底的にIT化して印刷ロスを防いだり、化学物質の使用量を削減しています。さらに、印刷内容の受け取り、その編集提案の提出と相談を従来は営業マンが車で訪問して行っていたのを全てLAN化してガソリンと時間を節約した等の取り組みが杉井社長から紹介されました。

続いて、柏市の産廃処理業の山本産業^{さんぽん}から、単に産廃の収集運搬や処理に取り組むだけでなく、生ごみから完熟肥料を作って周辺農家に提供したり、環境に興味を持ってもらう手作り紙芝居で近隣小学校に出前授業を行ったりの地域貢献も行っていることが地味ながら話され、参加者の関心を惹きました。

最後は、最初の土田 茂通理事と同じく松戸市民で審査人であるあり当協議会のEMS支援センターの西田啓作副センター長が「エコアクション21認証・登録の手続きとそのポイント」を説明しました。工場など問題がある部分を外して事務所などのきれいな所だけの審査を受けるのは駄目で、全組織、全活動で受審するのが原則であること、認証・登録をされれば終わりなのではなく、毎年審査があることなどが要点でした。

第2部では、希望者から個別相談を受けました。

すでに取組を具体的に検討しておられる事業者、取組もうかどうか迷っておられる事業者などから相談があり、当日会場に詰めていた審査員が3社に対応しました。この3社を含めて、今回参加者はEMS支援センター員がぜひ取組んでいただけるようにフォローしたいと考えています。

EMS支援センターとしては、21年度にこの普及セミナーを少なくとも3ヶ所で開催することを計画したのに、7月に自治体向けのそれを千葉で1回開いたのみでした。一般事業者向けのセミナーを今まで開催していなかったため、心待ちしておられた事業者が山武市や富津市などの遠方からも反対側の端に位置する松戸でのセミナーに参加して下さった理由ではないかとも考えられます。

平成22年度は本紙5ページにご案内のとおり、7月に千葉で開催を予定し、それ以外に各地で少なくとももう2回の開催を計画すべく、準備を進めたいと考えています。

最後に、今回の普及セミナーの開催に大変ご協力下さった松戸商工会議所環境対策相談室の三澤 達夫室長に厚くお礼を申し上げます。

(環境マネジメントシステム支援センター副センター長
西田啓作)



開催案内

EA21 地域普及セミナー

環境省が推進するエコアクション 21 (EA21) の今年度初めてのセミナーです。

EA21 は、環境省が 2004 年に策定した環境経営システムで ISO 14001 に比較して広範な中小企業、学校、公共機関などが環境への取組を効果的・効率的に行うのに大変便利にできています。

EA21 は、4 月現在、全国で約 4,500 件認証・登録されており、毎年 1,000 件増えていると言われています。

千葉県は 110 件程度で全国第 12 番目位です。

全国的に大分知名度が上がってきました。

当協議会は毎年数回、EA21 普及セミナーを開催しています。今年度は、まず千葉商工会議所で開催します。

セミナーの内容は以下のとおりです。

日時 平成 22 年 7 月 30 日(金) 13:30~17:00

会場 千葉商工会議所 14 階第 2 ホール

主催 当協議会及び千葉商工会議所

講演 ①今、何故、エコアクションか?

講師 種本利治氏(会員、EA21 審査人)

講演 ②EA21 の取組方法とそのメリット

講師 野口 久氏(会員、EA21 審査人)

事例紹介 EA21 に取組んでの成果

③精密機械部品製造 (株)サンコー

④福祉用具のレンタル販売 (株)ハートウェル

講演 ⑤EA21 認証・登録の手続きとそのポイント

講師 服部達雄氏(地域事務局員、EA21 審査人)

参加費 無料

問合せ先 二宮恵 (Tel&Fax : 0436-61-2083)

(環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵)

開催案内

ISO 内部監査員養成講座

今年も ISO 9001 及び ISO 14001 の内部監査員養成講座を 2 回ずつ開催します。

①ISO 9001 : 平成 22 年 6 月 17・18 日(木・土)

②ISO 14001 : 平成 22 年 7 月 15・16 日(木・土)

③ISO 9001 : 平成 22 年 9 月 16・17 日(木・土)

④ISO 14001 : 平成 22 年 11 月 18・19 日(木・土)

講師 野口 久氏(会員、ISO 審査員) ①③④担当

西田 啓作氏(会員、ISO 審査員) ②担当

会場 いずれも千葉商工会議所、定員 24 名

受講料 3 万円

千葉商工会議所との共催

(環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵)

開催案内

第 13 回企業環境セミナー

当協議会では、ISO 14001 の認証取得済みで改善向上をめざす企業及びこれから認証取得をめざす企業を対象に企業環境セミナーを毎年開催しています。

今年度は 10 月 15 日に千葉商工会議所で開催します。

今年で第 13 回目です。当初は、ISO 14001 の構築の啓発を目的にしていたのですが、次第に事業者が成熟され継続的改善をめざす方向に変わってきました。従って最近では参加者も構築を検討している企業だけでなく、認証取得済企業が多くなっています。

近年、ISO は何のメリットがあるのか議論されることが多く、そのような背景を踏まえて今年度は、「経営に役立つ ISO 14001」というタイトルで開催します。

概要は以下のとおり。

日時 平成 22 年 10 月 15 日(金) 13:00~17:00

場所 千葉商工会議所 14 階第 1 ホール

主催 当協議会及び千葉商工会議所

基調講演 経営に役立つ ISO 14001

(企業の実態とその改善点)

講師 荒野喆也氏(会員、ISO 審査員)

事例紹介

(1) 広栄化学工業株式会社(化学製品の製造)

(2) 千葉オイレッシュ株式会社(産業廃棄物事業)

講演 原理・原則に沿った目的・目標設定と運用

(企業の目的を達成するために EMS で環境パフォーマンスに良い結果をもたらす方法)

講師 山本光男氏(会員、ISO 審査員)

参加費 1,000 円

環境カウンセラーの方もご出席ください。

申込先 二宮恵 (Tel&Fax : 0436-61-2083)



第 12 回企業環境セミナー (2009 年 10 月 9 日)

(環境マネジメントシステム支援センター長 二宮 恵)

地球温暖化対策活動

[チーム・マイナス 6%]から
[チャレンジ 25]へ

地球温暖化対策センター長 辻川 毅

地球温暖化問題は人類存続の脅威であることが IPCC 第 4 次報告書で共通の認識として表明され、世界各国が対応に努力しているところです。

2005 年 2 月 16 日「京都議定書」が発効し、日本は 2008 年から 2012 年の間に CO₂などの温室効果ガス排出量を 1990 年比で 6%削減することを義務とし、様々な対策を進めていますが、その一環として[チーム・マイナス 6%]国民運動が推進され 2009 年度には約 35,000 団体と 340 万人(個人)が活動中であります。

このような中、2009 年 9 月 22 日に鳩山総理が国連気候変動サミットで、環境を守り、未来の子供たちに引き継ぐため、日本の温室効果ガスの排出量を 2020 年までに、1990 年比で 25%削減すると表明しました。

この施策推進にあたり、今までの[チーム・マイナス 6%]を解消し、2010 年 1 月 14 日から[チャレンジ 25 キャンペーン]を展開することになりました。

この詳細ロードマップと目標は 2010 年 3~4 月で表明するべく、政府で検討取りまとめ中ではありますが、発足にあたり、6 つのチャレンジ…①エコな生活スタイル、②省エネ製品の活用、③自然エネルギーの活用、④ビル・住宅のエコ化、⑤CO₂削減につなげる行動、⑥温暖化防止活動に参加と 25 のアクションプランが提言されています。

一方 2009 年 12 月の COP15 会合で、米国・中国を含む主要国による「コペンハーゲン合意」が取りまとめられましたが、その合意事項の主な内容は

1. 温室効果ガス削減目標と行動…2050 年(長期目標)において、産業革命以前からの気温上昇を 2℃以内に抑えるため地球全体の排出量を大幅削減の必要性に合意。また 2020 年(中期目標)に先進国は削減目標、途上国は削減行動を 2010 年 1 月末までに表明すること。
2. 途上国支援として…先進国は 2010 年から 2012 年に新たに短期資金として、3900 億ドル拠出、2020 年までに長期資金として 1000 億ドルの拠出。…CO₂の排出削減 (REDD) 対応として、植林等の取組と、森林の減少・劣化に起因する REDD の強化。

であります。一方、包括的な枠組みと京都議定書のそれぞれについて、2011 年 11 月の COP16 (メキシコ)で結論を出すこととなっています。

環境公開講座開催報告

「気象と生活」

1 月 31 日(日)午前、千葉市民会館に、銚子地方気象台の鈴木 淳総務課長を講師にお迎えして、表題のテーマで講演していただいた。当日、講演資料はなく、演者の体験(縦糸)に、随時自由に質問を受け付け、それに答える(横糸)やり方で 2 時間話された。



鈴木 淳総務課長の講演

静岡県出身の演者は、静岡地方気象台を起点に、富山、福井、羽田、輪島、名古屋を経て、現在、銚子気象台に勤務。

かつて、その都度、我が子が転校を余儀なくされて閉口したが、各地特有の気象を直に体験して、気象官は一人前に成長していくのだと 54 歳の今、ようやく分かってきたとの体験談になるほどと思った。

以下、講演内容に沿って印象に残った点を記述する。

地球の温暖化が進むと何が起こるか、又それは何故なのかを常に考えてほしい。米作も、北陸地方は困っているが、秋田では豊作になった。ロシアでは従来、寒冷で不可能だった地域で農作物が可能になっている。

実際に現地に行って自分の目で見て、その原因を考えて見ることが大切だ。海水温は 27℃付近が境でこれを越すと上昇気流が顕著になり台風が発生する。

進路予報がたびたび外れるのは南方海上の観測点が少ないからだ。又、最近、桜の開花時期が狂い、梅雨入りや明けも不明確だ。局地的な集中豪雨も頻発、昔、遊水地だった所の宅地化などにより、災害が増幅されているのが現状だ。

今年 5 月から、大雨等の警報が従来よりきめ細かく発表される予定。

最近風の予報ニーズが多く、対応するには米軍の航空管制や民間機の飛行問題等が複雑に絡み、観測気球打上げも規制を受ける厳しい現状を打ち明けられた。

当日の参加者は会員 22 名、非会員 9 名、合計 27 名であった。

(広報部員 松本源寿)

～千葉市から始める環境ライフ～

第4回3R推進全国大会 in ちばの 開催に参加して

1. はじめに

平成21年4月21日に千葉市環境管理部ごみ減量推進課からの電話と訪問により、第4回3R推進全国大会 in ちばが、10月16日(金)～18日(日)の3日間、千葉ポートアリーナとホテルグリーントワー千葉で、環境省と千葉市共催で開催されることになったとのことで、その実行委員会に当協議会(EC千葉)の参加を要請された。

主な開催内容は、全国大会式典&記念講演会(16日)、ちばし環境展—これが3日間通じて行われるメインイベント、3R活動事例発表や講座(17、18日の両日)などである。

実行委員会は、行政、市民、企業、NPOとの協働とし、環境省、千葉市のほか、関東地方環境事務所、3R活動推進フォーラム、千葉商工会議所、千葉市大型店会、千葉市婦人団体連絡協議会、千葉県産業廃棄物協会、千葉県環境保全協議会で構成を予定しており、NPOとしての参加を当協議会に要請されたのである。

千葉市は、現在、「焼却ごみ1/3削減」に取り組んでいることにNPOとして協力を惜しまないこと、EC千葉にも多くの千葉市民がいることから、委員に加わることを5月のEC千葉の理事会で決めた。

実行委員会員に戸村 泰副理事長、幹事会委員に野口康男理事がなることになり、実行委員会は、4/27、10/7、12/21に、幹事会は、5/18、7/下旬、9/中旬、12/中旬に開催予定となった。

2. 大会の状況とEC千葉の活動

10月16日(金)、17日(土)、18日(日)の3日間は、幸い秋晴れの好天に恵まれ、公式発表では10,000人の参加者があった。

この大会は、広いアリーナとホテルを使って、同大会のコンセプトである「市民・事業者・行政が一堂に会し、循環型社会形成に関するそれぞれの知識や経験を交換するとともに、参加者一人ひとりが自らのライフスタイルを見直し、ごみゼロ社会の実現や循環型社会の形成に向けた取組を推進する」にもとづいて、極めて多彩な催しの複合体となった。

大会の主な状況とEC千葉の活動について報告する。

①大会の冒頭に催された大会式典では、環境大臣政務官のあいさつに引き続いて、千葉市熊谷市長が力強

い「焼却ごみ1/3削減」の実現に向けての決意を表明されたのは印象的であった。

②3日間、アリーナの大きな場所を占めたのは、「ちばし環境展」で、64の企業・団体がブースをさまざまな趣向で飾り、3R活動をPRしていた。NPOなどの多くの市民団体が出展に参加することが大切と考え、実行委員会にNPOの出展費無料を提案し実現することができたのは良かった。

③EC千葉の展示にあたっては、野口 康男理事などの発案で志を共にする市内の4つのNPOの環境団体(生ごみ減量研究会、ビオスの会、千葉大環境ISO学生委員会、環境ネット)と合同展示を行った。合同展示は初めての試みだったが、広いブースで大成功だった。

当協議会の大山 長七郎廃棄物対策センター副センター長の豊富な分別サンプルの展示と説明は好評だった。

その他、EC千葉の環境学習センターの紹介、EA21の紹介、浄化槽適正使用の重要性の紹介などのポスター展示を担当し、連日7～8名のEC千葉の会員が参加した。

④千葉市焼却ごみ1/3削減推進市民会議の中間発表と公開討論会に出席した。(17日)

⑤県民環境講座の市民代表パネラーとして、3R推進に係る「私の身近な市民活動例の紹介とこれからの循環型社会の重要性」について戸村 泰副理事長が発表した。(18日)

⑥ベイFMが組む本大会に関する特別番組でEC千葉が紹介されることになり、その取材に対応した。

3. さいごに

この大会は、官製の催しとなりがちだが、目的は一般市民に3Rの重要性を広めようと言うものではなく、ならば、もっと大会の運営により多くの市民が加わる工夫をすべきと思った。

(副理事長・環境学習センター長 戸村 泰)



県立高校での環境学習授業の報告

県立茂原高校の環境科学特別授業

11月10日と24日、県立茂原高等学校の3年生13名を対象の環境科学(宮本明宣先生担当)の授業で、「シュロの植生と環境変化」について中庭 武雄と山口由富子が特別授業を実施した。

授業は、学校近隣に観察に適した森林がなかったためパワーポイントを使用し室内での学習になった。

1時限は、身近な植生変化、野外観察法、シュロの植生調査結果をもとにした考察、身近な森林に出現してきた樹木・減少している樹木について学習した。

2時限は、植生の北方と高所への移動の現状を、北アルプス・南アルプス等におけるハイマツ群落に侵入するダテカンバ、キバナシヤクナゲの群落に侵入するハクサンシヤクナゲなどの画像をもとに考察した。

また、農作物の高温障害・動物への影響等、温暖化の影響を国内・地球規模で捉え防止策などを学習した。

学習後の生徒感想文は、「・地球温暖化が人間の問題だけでなく地球全体の問題なので、温暖化を進めてしまった人間が責任を持って解決しなければいけない。・先生のお陰で植生変化の現状から地球温暖化の現在の危機を身近に感じることができた。自然環境を守るために私も何か行動を起こしたい。日本はCO₂排出量にかなり気遣っていると聞き感心したが、すべての人が省エネに強く関心を持たないと温暖化は少しずつ進んでいくだろう。緑の大切さとともに微細なことからでも実践していかななくてはならないと知った。・動植物と環境が、こんな深い関係があることを知り驚いた。こういう現状になった原因は、私たちがもたらしてしまった地球温暖化、これ以上の進行を防ぐためにも、私たちができることをしっかり取りくんでいきたい。」等純粋な気持ちで綴られていた。残念ながら総合学習は、今後進学指導などで継続できない状況にあるとのことであった。

(環境学習センター副センター長 中庭 武雄)



県立鎌ヶ谷西高校の環境学習授業

県立鎌ヶ谷西高校から環境学習授業を対応してもらえるかとの連絡が事務局にきたのは、7月7日だった。

実は2008年からの環境学習センターの広報活動の一環で辻川 毅理事が当校(高野義教教諭)と環境学習授業を打診・接触していた。早速、担当の古賀直子教諭(生物、2学年総合学習担当)をお尋ねし計画の概要を相談。

①2学年総合学習授業は、環境をテーマに年間計画を作成し、文科省のSPP(Science Partnership Project)に採択された。②11月25日(水)に「千葉の自然環境とその保全」のテーマで授業(第5&6時限(約2時間))を、2学年186名を8クラスに分け並行して行う。

③講師の依頼先は、東邦大学教授及び千葉県環境アドバイザー3名にも依頼しているので、当協議会は以下の4つの講座とその講師を担当する。

1. 「バイオマスの活用の講座」講師：阿部邦夫・服部達雄、生徒数20名。やや難しいテーマなので生徒に関心を持たせるよう実験を多くした。新型の水素自動車実演、メタン消化液の臭気体験、南極・北極の氷が解けた時の海面上昇実験や、さらにマケドニア共和国で行ったセミナーの説明も行った。講義のあとレポートを書かせたところ18名が提出してくれた。寝たふりの生徒も一応話は聞いているのだなーと感心。2名の生徒は非常に熱心に聞いてくれて質問も的確にしてくれた。東京理科大を受験するつもりでバイオマスを勉強したいと言っていた。大変うれしいことであった。

2. 「水の分析の方法を学ぶ講座」講師：長内 悦子・久保田 隆・長谷川 三喜雄、生徒数22名

3. 「食の観点から地球の温暖化を考える講座」講師：小野 鈴子・倉田 智子、生徒数21名

4. 「グリーンコンシューマーとマイバッグ持参活動の講座」講師：大西 優子、生徒数19名

(環境学習センター副センター長 阿部 邦夫
・センター長 戸村 泰)



自然観察会開催報告 房総丘陵の植生観察会

房総丘陵の植生観察会は、11月27日(金)、JR久留里駅前に集合し、参加者9名が車に分乗し、札郷作業所に向かい東大演習林で実施した。作業所では、2名の講師の先生から講義を聞くことができた。

東大の才木 道雄先生から、房総の東大演習林は32,000haでJR山手線の5倍の面積を有し、全国には7箇所(国土の1/1000)があり大学における教育の場、研究の場、社会教育の場等の役割についての概要を聞くことができた。

篠平 量男先生(元県立高等学校生物教師、房総のヒメコマツ研究グループ代表)から、房総丘陵の植物相は、西南日本からの植物相の北限、東端(ウバメガシワ、オガタマノキ、ヒロハドウダンツツジなど)になっている。一方房総丘陵は標高300m前後ながらヒメコマツ、ヒカゲツツジ、ツガ、モミなどの山地帯の植物相が険しい尾根筋に分布している。しかし、氷期遺存種であるヒメコマツが近年急激に減少し絶滅の危機にある。成木の主な枯死原因は、松くい虫被害、1990年代の異常気象による干害により20年ほどの間に約10分の1に激減し現在確認されている個体は85本で緊急な保全が必要である状況であることが分かった。

午後は、ヒメコマツの実生を育苗する畑、モミ・ツガなどの針葉樹天然林、ヤマザクラ・イロハモミジ・カゴノキなどの広葉樹天然林、光が良く通る樹高40mもあるスギの人工林などを見学した。最後に尾根にわずかに残る貴重なヒメコマツも観察でき房総丘陵の多様な植生と素晴らしい紅葉も観賞でき感動の1日だった。ご指導いただいた先生方に心より感謝する。

また、当日は暖かく出なくなったはずのヤマビルまで出現し、刺された人もあるなど自然の複雑さを最後まで教えられた観察会であった。

(環境学習センター副センター長 中庭 武雄)



出展報告 千葉市民活動フェア2009 in きぼーる

11月20日(金)、21日(土)の2日間、千葉市の「きぼーる」の1階アトリウムにて、「千葉市民活動フェア2009 in きぼーる」が開催された。

当協議会が理事会などさまざまな会合や打ち合わせ場所として大いに利用させていただいている千葉市民活動センターが中心になって開催されていた「千葉市民活動フェア」(当協議会から野口 康男理事が運営委員として参加している)は、千葉市民活動センターでは手狭なため新しくできた「きぼーる」に場所を移して、「千葉市民活動フェア2009 in きぼーる」と名称も新たに開催された。

当協議会からは、ポスターと資料(協議会紹介、環境学習活動事例、浄化槽の適正管理の重要性、エコアクション21紹介)の展示で参加した。

各出展者がそれぞれのアピール文を作って展示に飾ろうとの試みが行われ、当協議会はずぎのアピールをした。

千葉市をずーっと住み続けやすい街にするために
私たちにできること それは・・・

「環境立市・千葉」として地球温暖化対策、
環境保全対策等を市民と共に実践し、
日本一の「エコ都市」をめざすこと

です!!

団体名

NPO法人環境カウンセラー千葉県協議会

みんなでYANBEI

(副理事長 戸村 泰)

総務部からのお知らせ

2009年11月1日～2010年4月4日の間、当協議会(EC千葉)への寄付金として、つぎの方々からいただきました。

有馬 富穂様	50,000円
國廣 隆紀様	32,500円
戸村 泰様	32,500円
二宮 恵様	33,000円
福井 信行様	30,000円
宮田 勉様	10,000円
吉野 定治様	9,000円

ありがとうございました。

新入会員紹介

森川 礼子 (もりかわ れいこ)

市民部門・茂原市

はじめまして。茂原市に住んでいる森川礼子です。

グループメールには早くに入れていただき、皆さんの常に勉強されている様子を見て、ご一緒に活動できるか心配になっていますが、楽しく色々なことを勉強していきたいと思っています。

現在、地元の自然観察の活動をしている市民団体の代表や環境教育活動の市民団体にも所属しています。自然観察などの活動から環境問題への興味関心を深め、解決のための行動の取れる人が増えるように勉強していきたいと思っています。

ご指導の程、よろしく願致します。

五十嵐 英夫 (いがらし ひでお)

袖ヶ浦市

私は8年前に現役を辞しましたが、現役時代には摩擦摩耗防止対策技術について従事しました。

これは省エネルギーにより二酸化炭素の発生を抑制することに直結します。第二の人生も現役時代と関係ある活動を志向したく、再生エネルギーを利用して電力を生む技術や機器に関心があり、当協議会に入会する動機になりました。

現在は、袖ヶ浦市在住を軸足にし「科学技術者フォーラム」、地域の「花の15会」、県温暖化防止活動推進員、市環境審議会委員などの活動もしています。

よろしく願い申し上げます。

訃報

故 佐藤 満由美殿

去る1月16日に逝去されました。

生前のご厚誼に感謝し、ご冥福をお祈りします。

ECU便り

(ECU:NPO 環境カウンセラー全国連合会)

理事・ECU担当 土田 茂通

平成21年度後半の活動は紹介すると

1. 環境省の第9回NPO/NGO・企業環境政策提言にECUは応募した。ECU以外に各環境カウンセラー協議会(協会)において提言を応募したのは千葉県協議会(EC千葉)と栃木県協議会(EC栃木)だった。ECUが提出した提言のテーマは「EA21の活用による二酸化炭素削減量取引制度の導入」であった。全国で57件の応募があり、「優秀提言」2件、「優秀に準ずる提言」5件が2回の審査会で経て選ばれました。ECUが応募した提言は「優秀に準ずる提言」に選ばれ、4月21日に環境政策フォーラムで発表を行った。ECU発足以来の初めての名誉が得られた。
2. NHK「どうなる?地球の明日」の平成22年度の回答者はECUより5人(EC福岡、EC東京城南、EC兵庫、EC千葉)が確定した。EC千葉よりは倉田 智子さんが選ばれた。
3. 環境大臣登録・人材認定事業の環境教育インストラクター養成セミナーが3月6~7日開催され、参加者が80人弱で大盛況であった。1日目の午前中は3講義、午後と2日目の午前はワークショップが行われた。
4. 緑化エコリーダー養成講座の全国展開が始まった。
5. ECU本部はEC杉並・東京中央の事務所の一部を使って正式な事務所を設置した。

編集後記

桜前線も通り過ぎて新緑が目立つようになりましたが、5月を迎えるというのに、まだ寒さを感じる昨今です。昨26日、信州の姨捨山に行きましたらソメイヨシノが満開でした。桜はまさに春の使者であることを実感しました。中国からの黄砂が話題になったかと思うと欧州火山の噴煙が社会的影響もたらし、さらに一昨日は中国由来の光化学スモッグがニュースとなり、天候の地球的話題が続いています。(TK)

広報 環境カウンセラーちば 第38号 (発行日 2010年5月9日)

発行：特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会 (発行責任者：國廣 隆紀 会員：127名)

URL：<http://www005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/index.htm>

事務所：〒261-0011 千葉市美浜区真砂3丁目18番2棟505号 戸村 泰方 (郵便宛先)

事務局：Tel& Fax 043-276-7300 服部達雄 ec_chiba_exec@yahoo.co.jp (各種ご相談、お問い合わせ先)

郵便振替口座：00110-5-34692 (加入者名：NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会) 会費はこちらに！

編集：広報部 國廣 隆紀・佐藤素子・二宮 恵・松本源寿

E-Mail pxz04373@nifty.ne.jp (記事寄稿先)

再生紙を使っています。